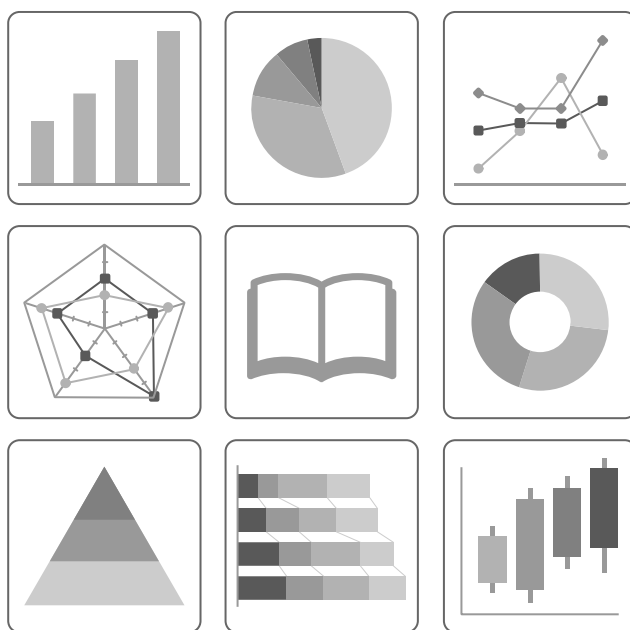


国分寺市
子ども若者・子育ていきいき計画に関する
アンケート調査結果報告書
(概要版)



国 分 寺 市

目次

1 アンケート調査の実施概要	1
2 調査結果.....	2
(1) 家庭内での子育ての役割分担について（就学前児童保護者・小学生保護者）	2
(2) 父の就労状況について（帰宅時間）（就学前児童保護者・小学生保護者）	4
(3) 母の就労状況について（帰宅時間）（就学前児童保護者・小学生保護者）	5
(4) 母の就労状況について（就業形態）（就学前児童保護者・小学生保護者）	6
(5) 母の出産前後の離職の有無（就学前児童保護者）	7
(6) 父の育児休業の取得について（就学前児童保護者）	7
(7) 母の育児休業の取得について（就学前児童保護者）	7
(8) 子どもが利用している施設等（就学前児童保護者）	8
(9) 子どもが病気やケガなどで小学校を休んだときの対処方法（小学生保護者） ...	9
(10) ホットとできる場所（小学生、中学生・高校生年代）	10
(11) ホットとできる場所の数（小学生・中学生高校生年代）	11
(12) 不安や悩みを感じたこと（中学生・高校生年代、20 歳代・30 歳代）	12
(13) ヤングケアラーの認知について（中学生・高校生年代）	13

1 アンケート調査の実施概要

(1) 調査の目的

「次期国分寺市子ども若者・子育ていきいき計画（計画期間：令和7年度から11年度）」の策定の基礎資料として、市民の生活実態やニーズ等を把握することを目的に調査を実施するものです。

(2) 調査対象

住民基本台帳から無作為抽出

(3) 調査期間

令和5年10月4日から令和5年10月26日

(4) 調査方法

郵送による配布、郵送・インターネットによる回収

(5) 回収状況

調査名	配布数	有効回答数	有効回答率
就学前児童の保護者	1,000 通	全体：496 通 郵送：278 通 WEB：218 通	全体：49.6% 郵送：27.8% WEB：21.8%
小学生とその保護者	1,000 通	全体：430 通 郵送：162 通 WEB：268 通	全体：43.0% 郵送：16.2% WEB：26.8%
12 歳から 18 歳 (中学生・高校生年代)	500 通	全体：139 通 郵送：64 通 WEB：75 通	全体：27.8% 郵送：12.8% WEB：15.0%
18 歳から 39 歳	500 通	全体：125 通 郵送：58 通 WEB：67 通	全体：25.0% 郵送：11.6% WEB：13.4%

(6) 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・帯グラフのみやすさの観点から0.0（％）の表示を省略しています。
- ・数字の重なりが発生するグラフの一部では、無回答の数値の表記をグラフ右に「0.2」として表示しています。
- ・平成30年度調査比較がないものは、平成30年度に実施していない、または比較困難なため表示していません。

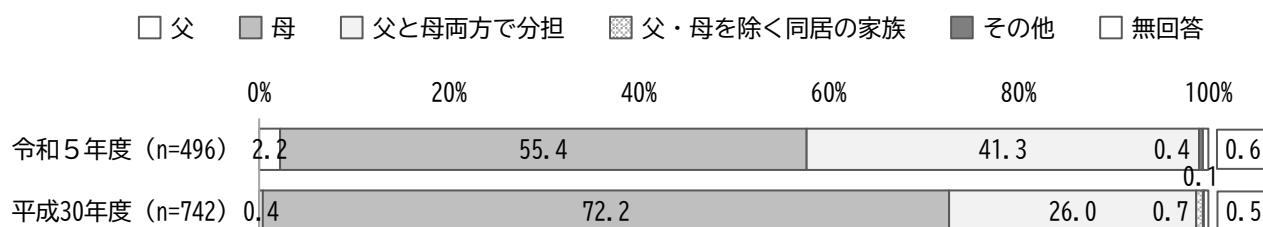
2 調査結果

(1) 家庭内での子育ての役割分担について（就学前児童保護者・小学生保護者）

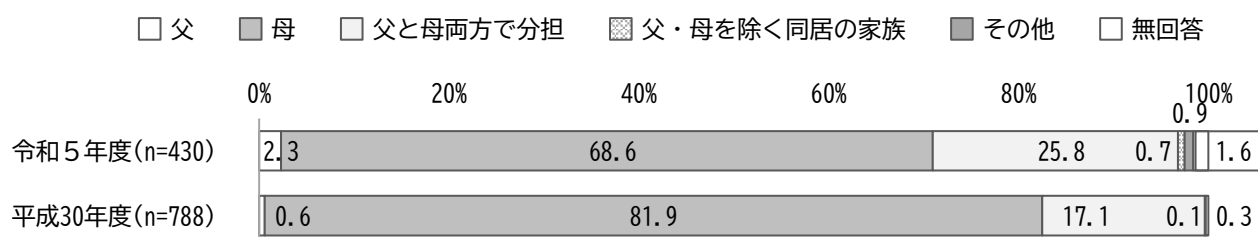
就学前児童保護者、小学生保護者ともに前回調査時よりも「父と母両方で分担」の割合が高くなっています。家庭内での子育ての役割分担について偏りが減ってきていることがうかがえます。

A 食事や身の回りの世話

（就学前児童保護者）

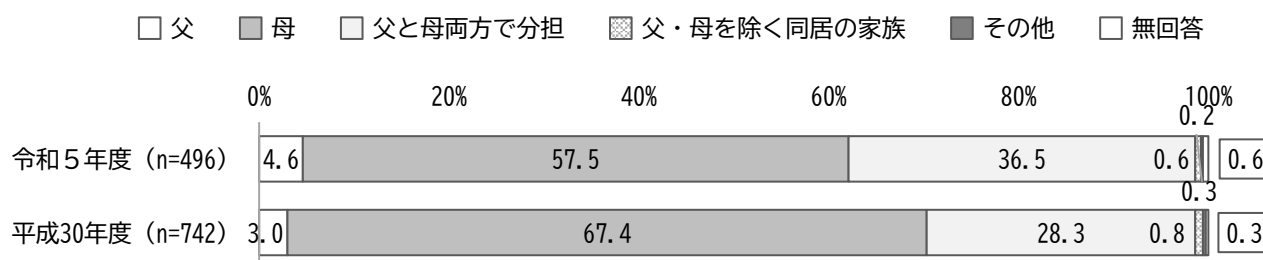


（小学生の保護者）

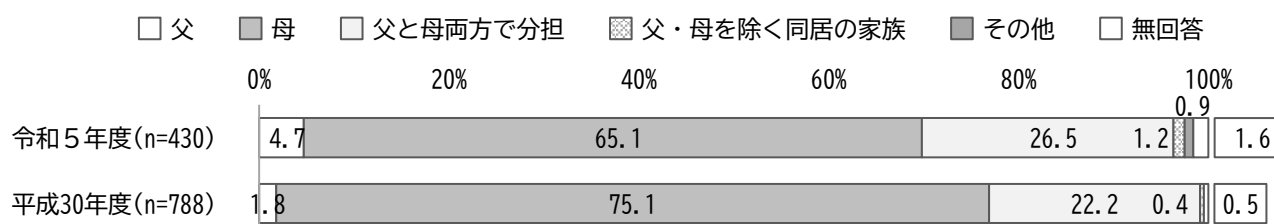


B 洗濯や部屋の掃除

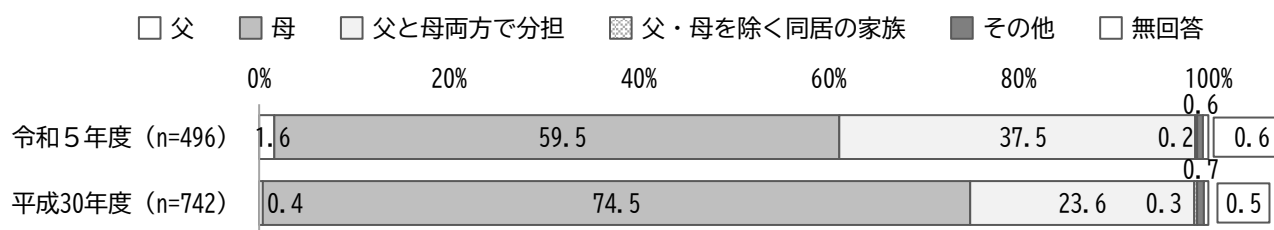
（就学前児童保護者）



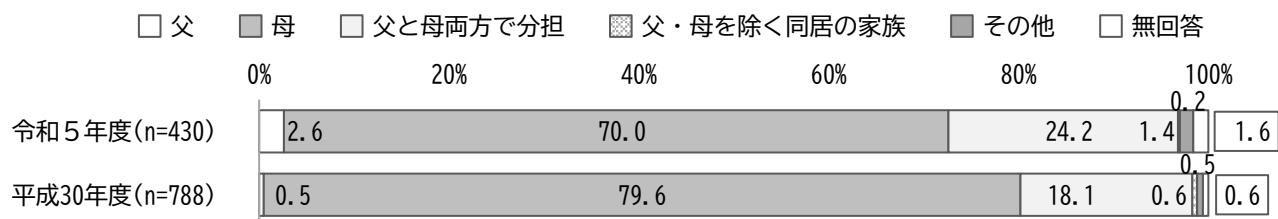
（小学生保護者）



C 病気の時の世話
(就学前児童保護者)



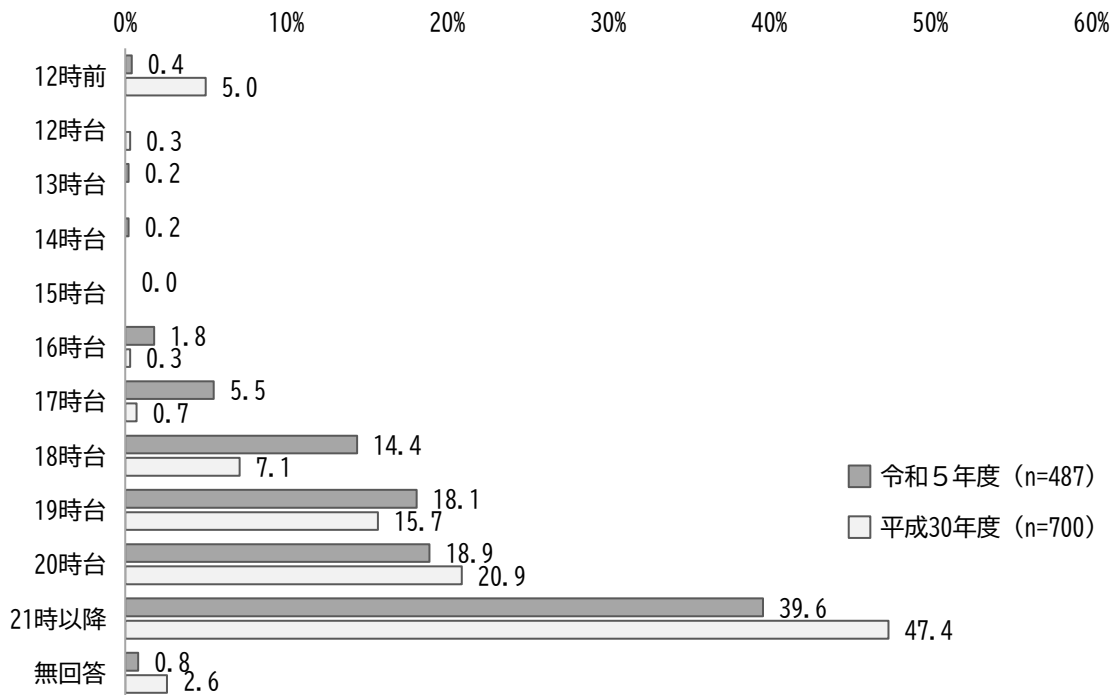
(小学生保護者)



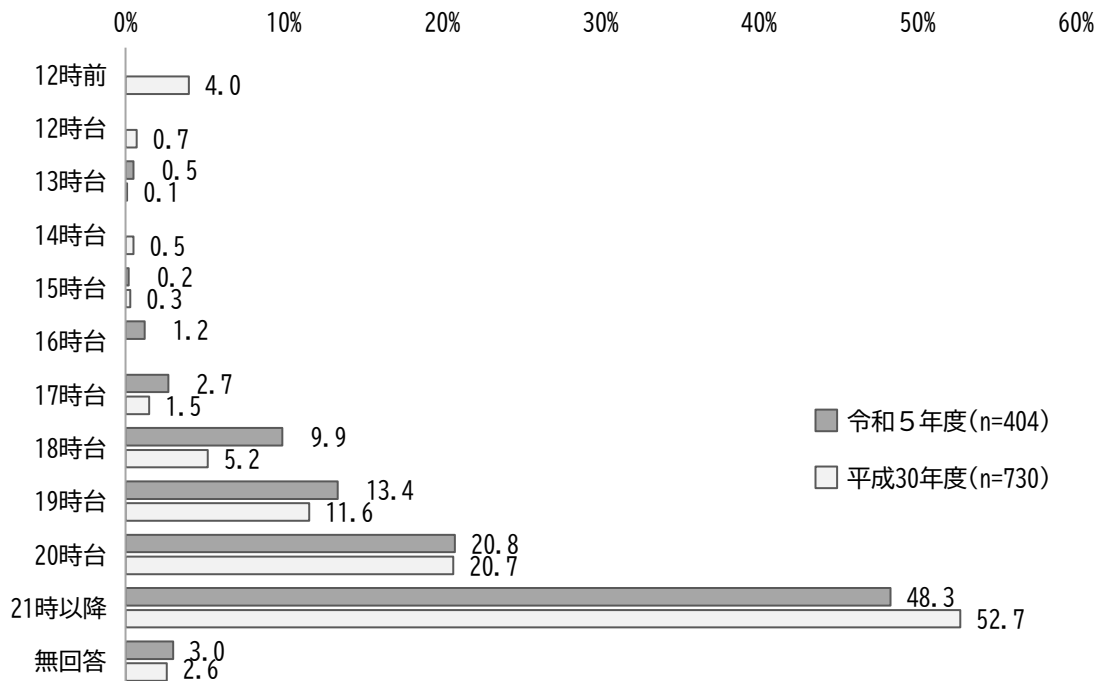
(2) 父の就労状況について（帰宅時間）（就学前児童保護者・小学生保護者）

就学前児童保護者・小学生保護者ともに、前回と同様に「21 時以降」の割合が最も高くなっていますが、前回調査よりも全体的に早くなっており、育児に参加できる機会が増加していることがうかがえます。

（就学前児童保護者）



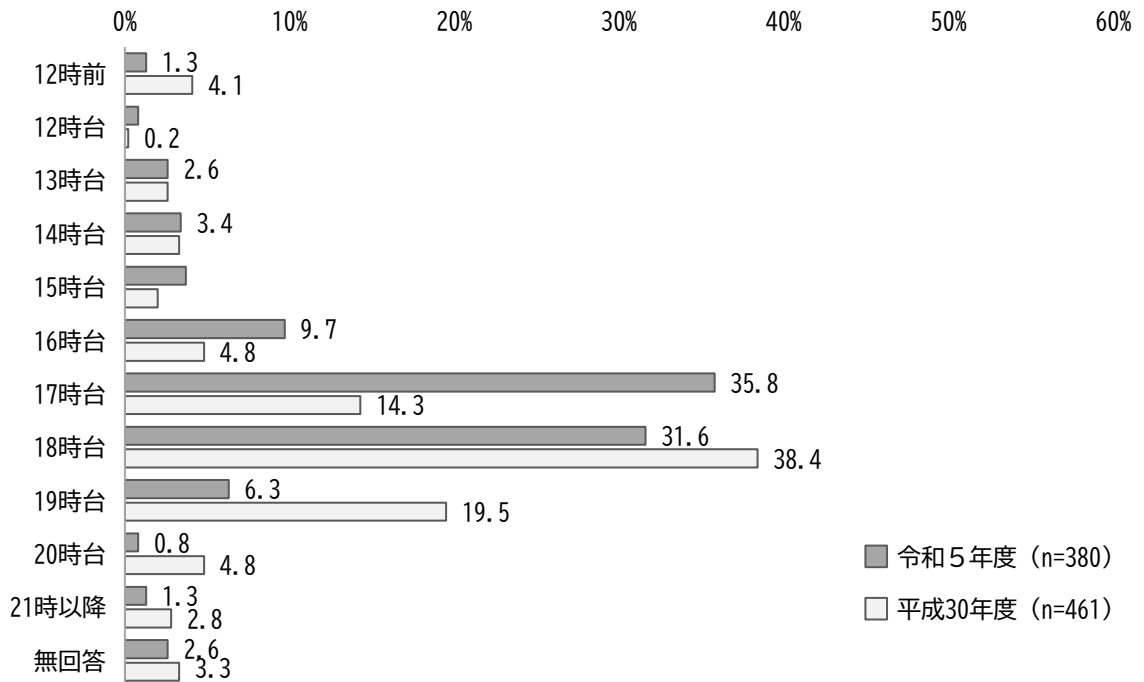
（小学生保護者）



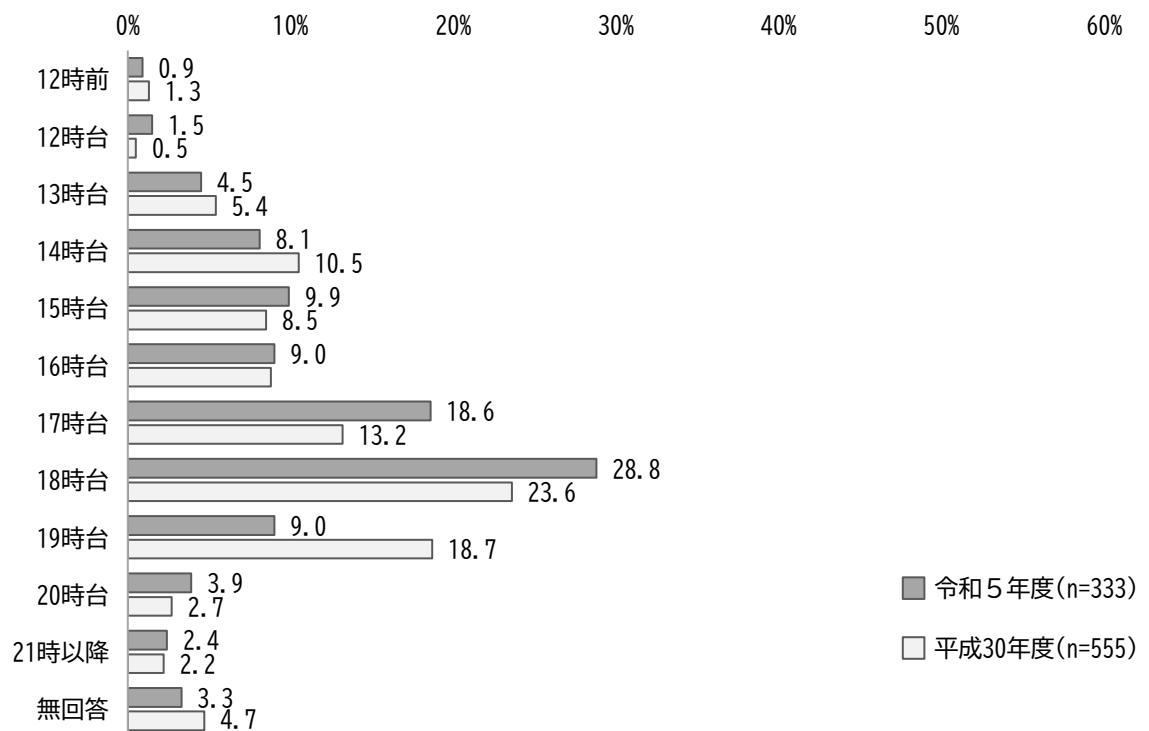
(3) 母の就労状況について（帰宅時間）（就学前児童保護者・小学生保護者）

就学前児童保護者・小学生保護者ともに、父と同様に、前回調査よりも全体的に早くなっており、育児に参加できる機会が増加していることがうかがえます。

（就学前児童保護者）



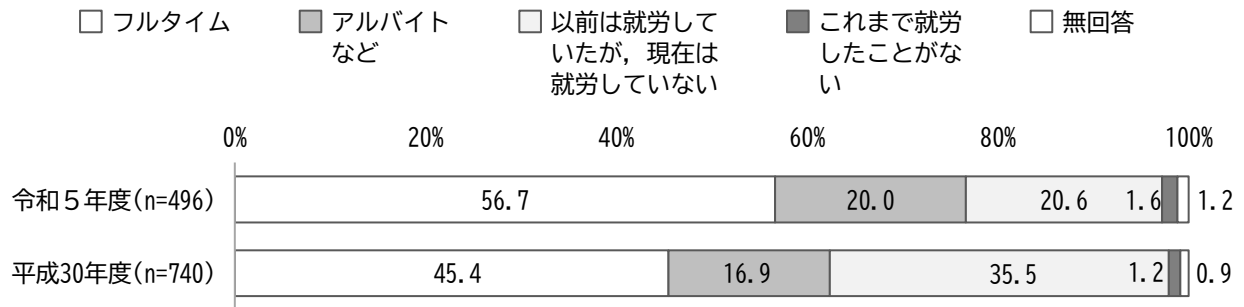
（小学生保護者）



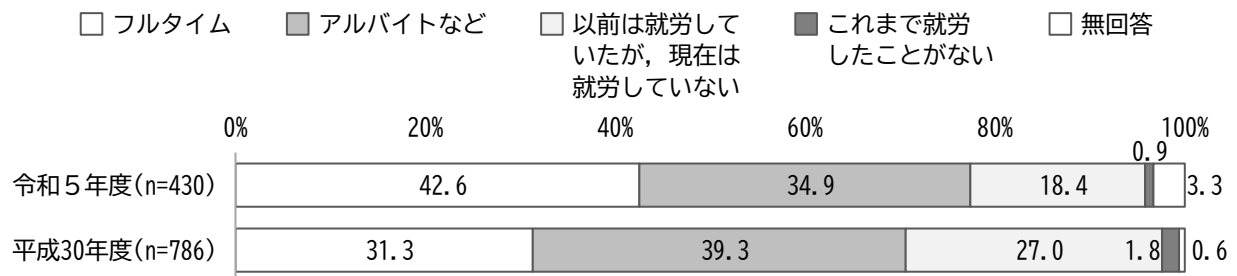
(4) 母の就労状況について（就業形態）（就学前児童保護者・小学生保護者）

就学前児童保護者・小学生保護者ともに、前回調査時よりも「フルタイム」の割合が増加しています。また、子どもの年齢が若い方が「フルタイム」の割合が高い傾向にあります。背景には、就業希望が増加していること、育児休業の普及により、育児による退職が減少したことや、出産・育児期間からの復職が容易になったことなどが考えられます。また、育児休業の普及は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」の割合の減少にも影響していることが考えられます。

（就学前児童保護者）

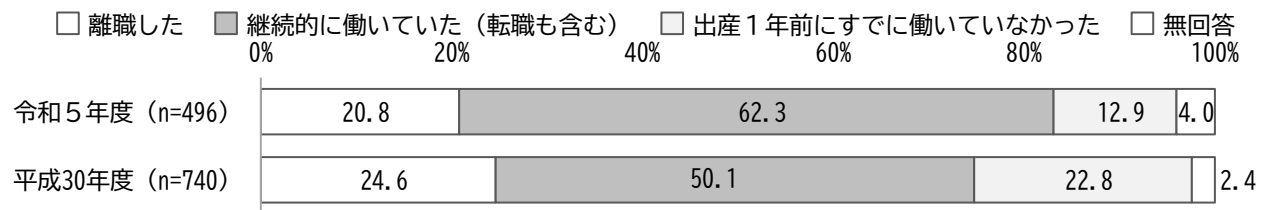


（小学生保護者）



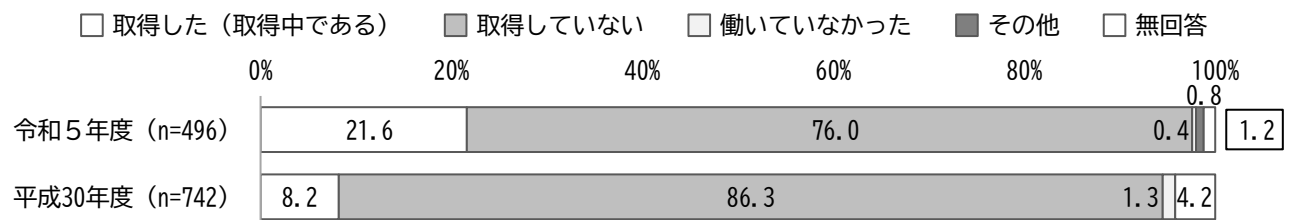
(5) 母の出産前後の離職の有無（就学前児童保護者）

前回よりも「離職した」の割合が減少し、「継続的に働いていた（転職も含む）」が増加していることから、出産・育児と仕事の両立がしやすい社会へと変化していることがうかがえます。



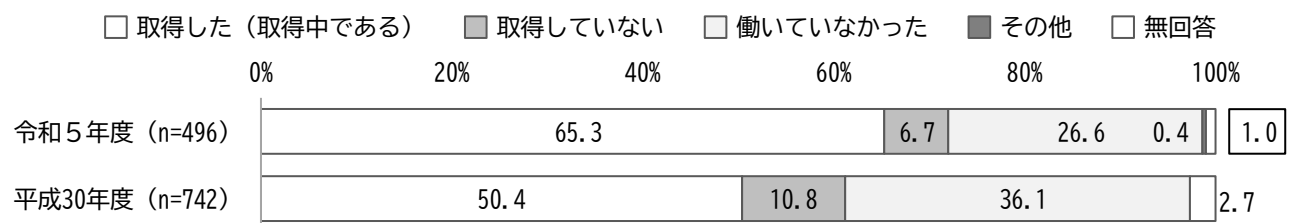
(6) 父の育児休業の取得について（就学前児童保護者）

前回よりも「取得した（取得中である）」の割合が増加しています。育児休業の取得が普及してきています。



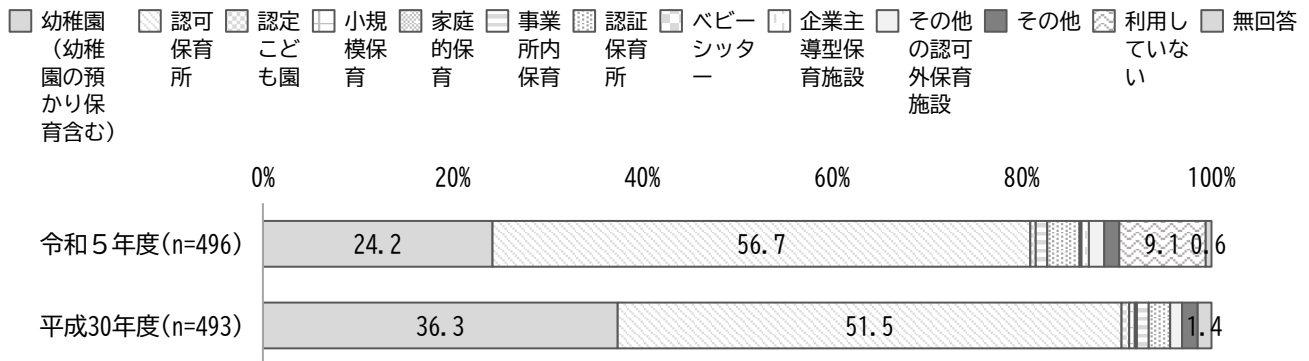
(7) 母の育児休業の取得について（就学前児童保護者）

父親と同様、前回よりも「取得した」の割合が増加しています。育児休業の一般化に加え、就業形態が正社員化していることが考えられます。また、育児休業の取得における男女差は依然として大きい状態が続いています。



(8) 子どもが利用している施設等（就学前児童保護者）

「幼稚園」が減少し、「認可保育所」が増加しています。これは、母親の就業率が高まっていることが影響していると考えられ、今後の就学前児童人口とともにその推移について注視していく必要があります。

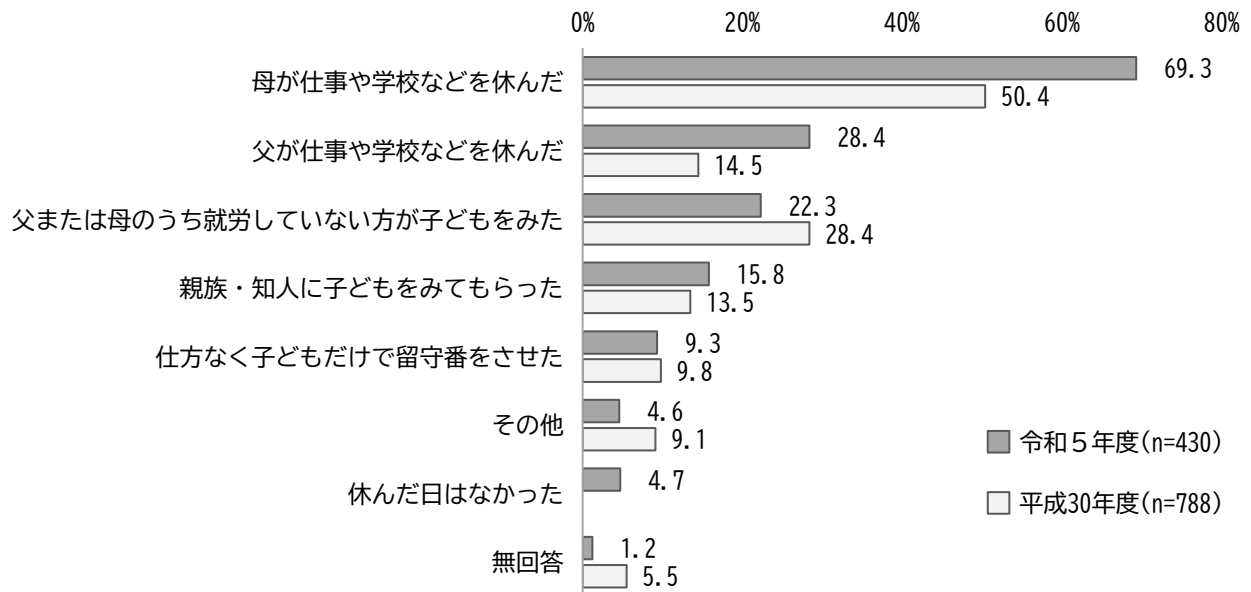


(単位：％)

	幼稚園（幼稚園の預かり保育含む）	認可保育所	認定こども園	小規模保育	家庭的保育	事業所内保育	認証保育所	ベビーシッター	企業主導型保育施設	その他の認可外保育施設	その他	利用していない	無回答
令和5年度 (n=496)	24.2	56.7	0.6	0.0	0.0	1.2	3.4	0.2	0.8	1.6	1.6	9.1	0.6
平成30年度 (n=493)	36.3	51.5	0.8	0.6	0.2	1.2	2.2	-	-	1.2	1.6	-	1.4

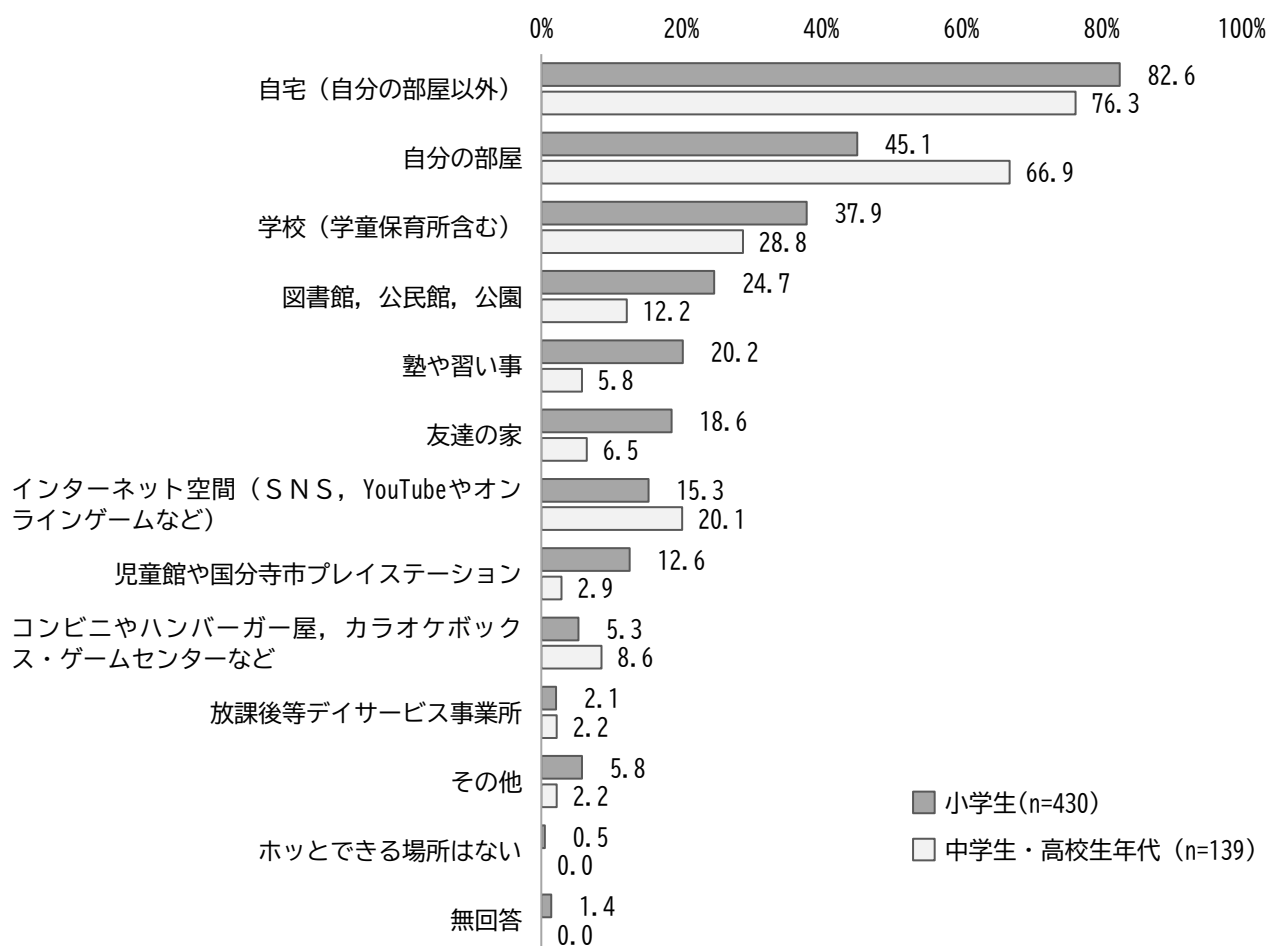
(9) 子どもが病気やケガなどで小学校を休んだときの対処方法（小学生保護者）

母親のフルタイムでの就業が増えていることから、「父または母のうち就労していない方が子どもをみた」が減少し、「母が仕事や学校などを休んだ」「父が仕事や学校などを休んだ」が増加しています。一方、「その他」の回答のうち、記述にて「在宅勤務・テレワークなどで対応した」という回答が多くありました。共働き家庭、特にフルタイムの増加は、病児・病後児支援等の需要を増加させますが、一方で保護者が在宅で子どもの面倒を見ながら働ける環境も徐々に普及しつつあることから、サービスの供給量を検討する上では、就労形態の多様化についても考慮する必要があります。



(10) ホットとできる場所（小学生、中学生・高校生年代）

ホットとできる場所を小学生と中学生・高校生年代で比較すると、小学生のほうが多い項目は「自宅（自分の部屋以外）」、「学校（学童保育所含む）」、「図書館、公民館、公園」「塾や習い事」「友達の家」「児童館や国分寺市プレイステーション」となっており、中学生・高校生年代のほうが多い項目は「自分の部屋」「インターネット空間（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）」などとなっています。

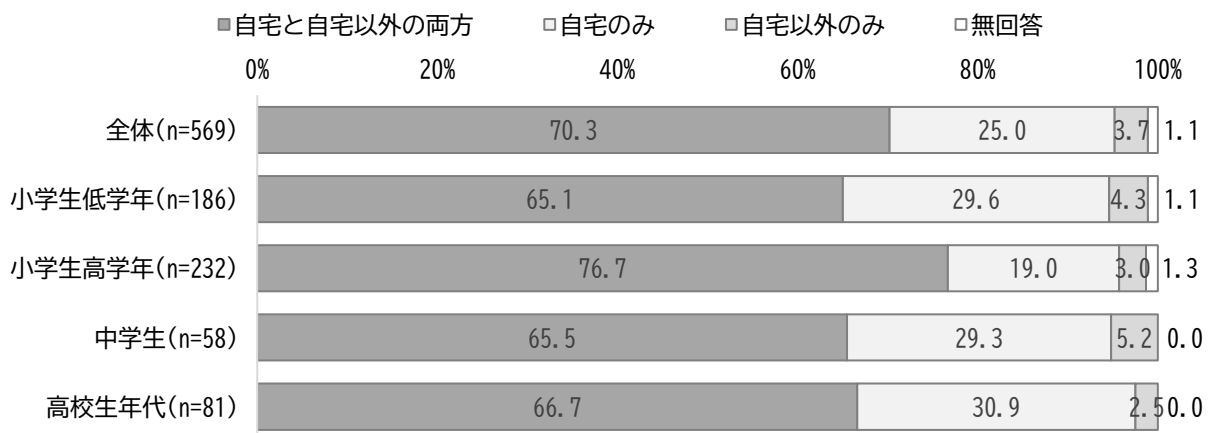


(11) ホットとできる場所の数（小学生・中学生高校生年代）

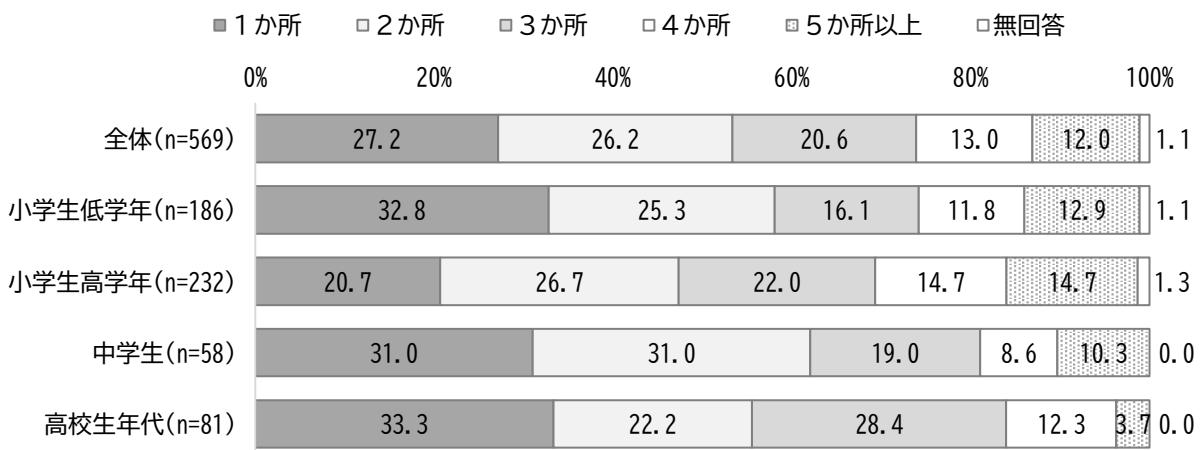
ホットとできる場所の項目を、「自宅と自宅以外の両方」「自宅のみ」「自宅以外のみ」の3つの区分に分け集計したところ、「自宅と自宅以外の両方」が約7割に対して、「自宅のみ」「自宅以外のみ」の、「複数の居場所を持っていない子」が約3割となっています。また、居場所について、選択した数を集計したところ、「1か所」の割合が多くなっています。

国の子どもの居場所づくりに関する指針においても、居場所を持てていることや、またその居場所が複数あることは、自己肯定感や将来への希望などの自己認識の前向きさに関係し、子どもの育ちにとって極めて重要であるとされていることから、子どもが複数の居場所を持てるよう、多様な地域の居場所づくりが求められます。

（自宅と自宅以外に分けて集計）

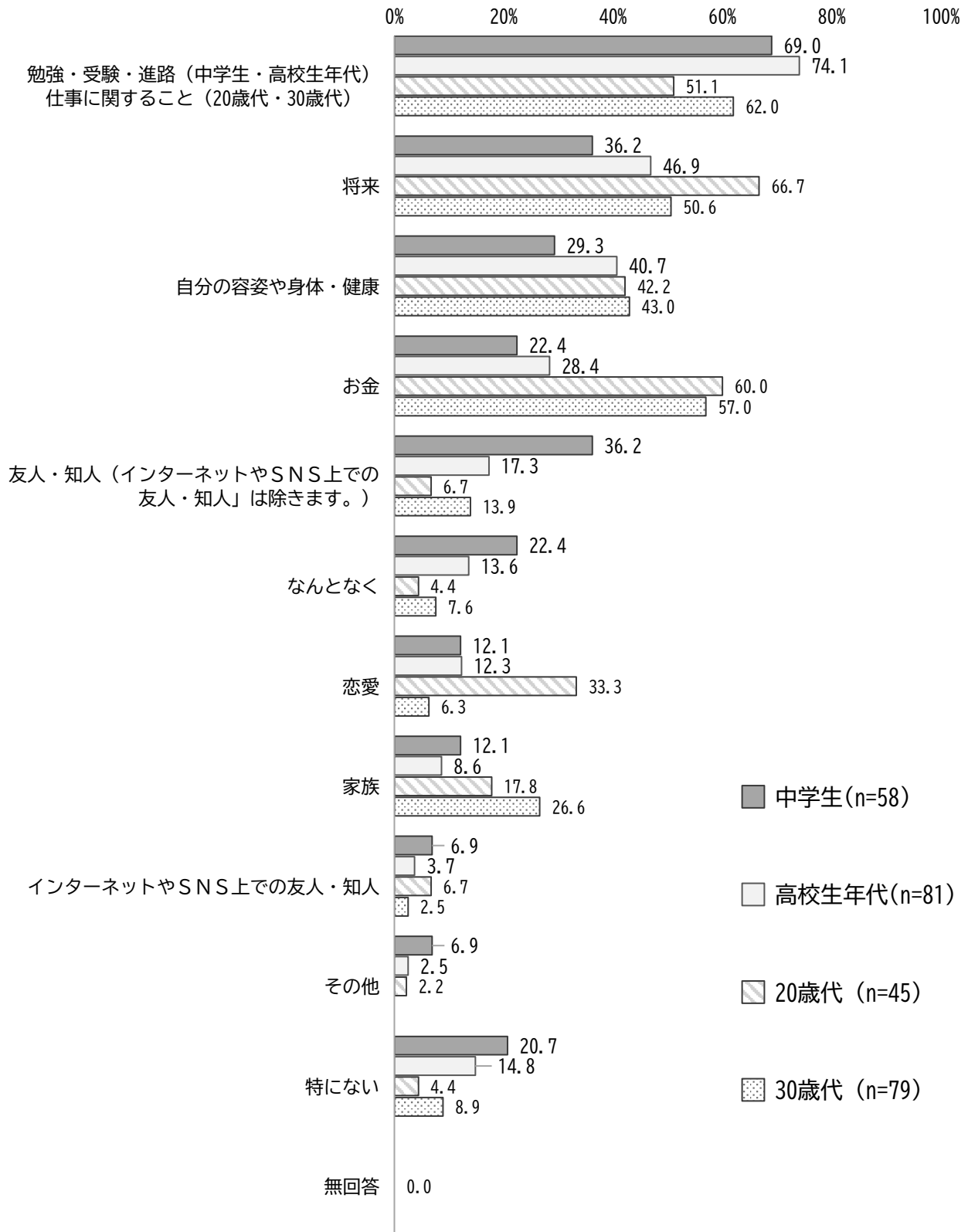


（選択した数を集計）



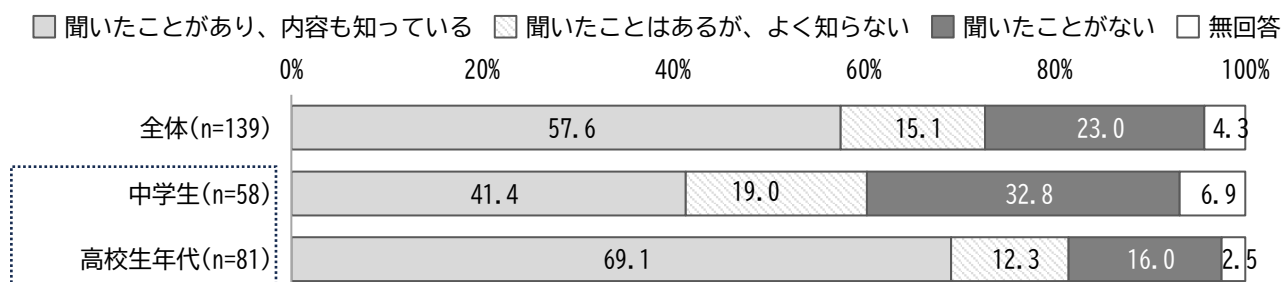
(12) 不安や悩みを感じたこと（中学生・高校生年代、20歳代・30歳代）

中学生・高校生で最も高い項目は、「勉強・受験・進路」、20歳代が最も高い項目は「将来」「お金」、30歳代が最も高い項目は「仕事に関すること」となっています。

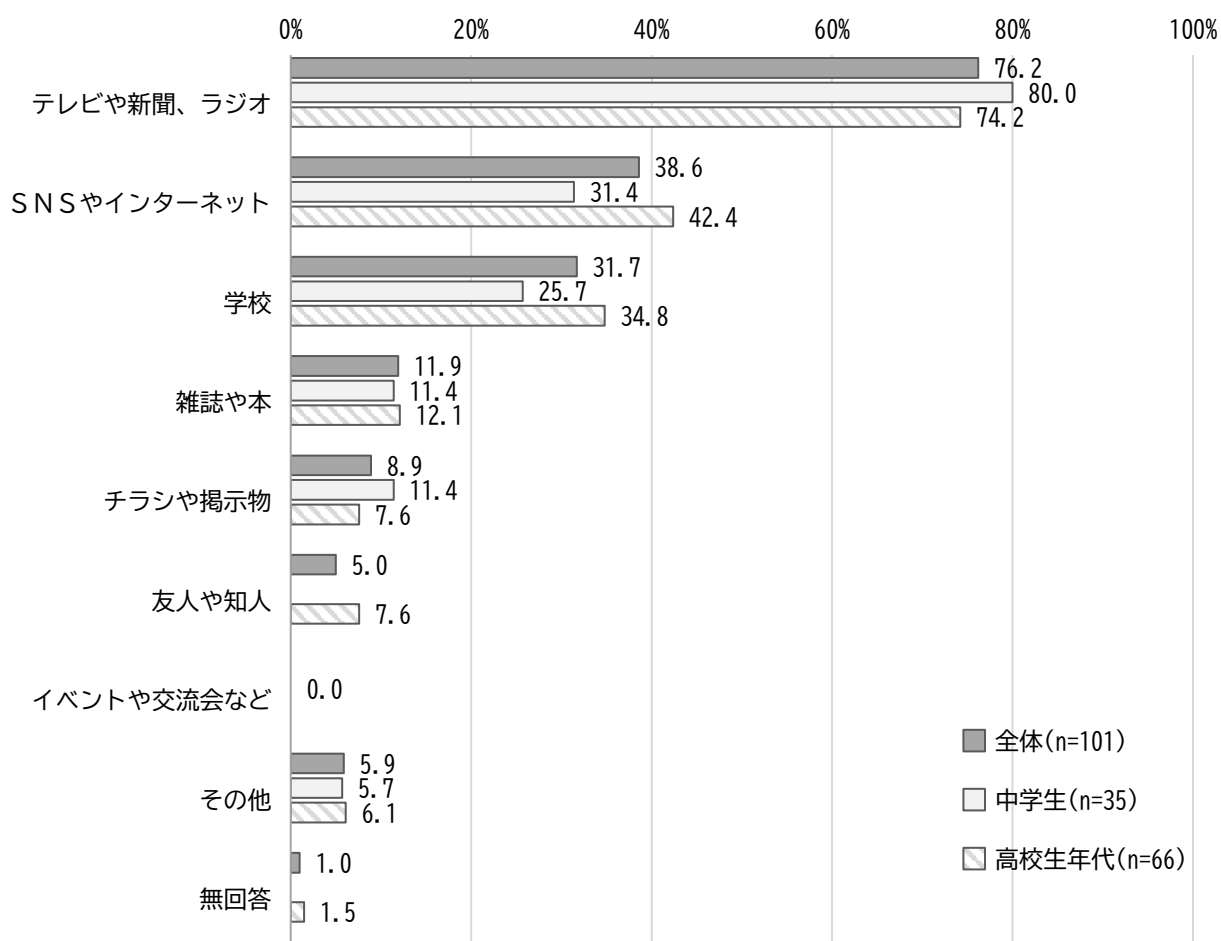


(13) ヤングケアラーの認知について（中学生・高校生年代）

ヤングケアラーを「聞いたことがあり、内容も知っている」割合は全体では5割を超えており、中学生よりも高校生のほうが割合は高くなっています。



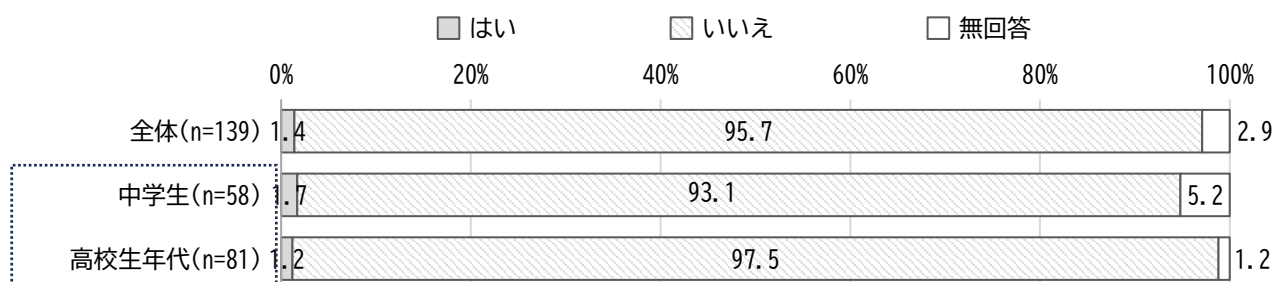
ヤングケアラーという言葉はどこで聞いたことがあるかについて、「テレビや新聞、ラジオ」の割合が76.2%と最も高く、次いで「SNSやインターネット」の割合が38.6%となっています。



「その他」回答

・母：2件 ・親 ・おうちの人 ・模試の文章 ・学校の授業中にテレビで知った

自身をヤングケアラーだと思うかについて、「いいえ」の割合が 95.7%、「はい」の割合が 1.4% となっています。



「お世話が必要な人はどなたですか」という質問については、「きょうだい」1件と、その他回答が1件となっています。「自身をヤングケアラーだと思うか」に対して「はい」と回答した人の中で、自身に起こっていることとして、「友人と遊べないことがある」、「特にない」という回答がそれぞれ1件となっています。